

平成18年10月発行

# 広報 - 第10号 -

発行元 独立行政法人国立病院機構 宮城病院  
発行責任者 木村 格  
〒989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原100番地  
TEL 0223-37-1131 FAX 0223-37-3316  
ホムページ <http://www.mnh.go.jp/>

## 基本理念

私たちは、国立病院の使命を認識し、当院を利用されるすべての方々に信頼され、かつ満足していただける医療サービスと生活支援をめざしております。

## 地域医療支援ベッドの開設について

宮城病院長 木村 格



山の頂き付近ではもう広葉樹が色づき始め、秋の気配を濃くしています。皆様には日頃から宮城病院をご利用いただき心からの御礼を申し上げます。今回は、宮城病院の大事な役割である『地域医療との連携』についてご紹介いたしましょう。

### 地域医療連携とは

病院には宮城県南部だけではなく、福島県や山形県、遠く関東や近畿からも患者様が紹介されて来られます。何と言っても多いのは、やはり山元町と亶理町、岩沼市、丸森町、新地町、相馬市や南相馬市など、この地域の病院や開業の先生からご紹介の患者様です。

町や職場の健康診断で高血圧や糖尿病、肥満や高コレステロール血症など生活習慣病を指摘されるとかかりつけ医にご相談されると思います。多くの場合、食事や運動など毎日の生活指導と薬物療法を受けられると改善がみられますが、中には脳卒中や心臓病、腎臓病等の合併症を起こす方がおられます。このような場合にはご自分で通院することが困難になって病院に紹介されます。病院での外来治療だけでも難しい場合があります。短期間入院をしていただくことで、自分の病気について、治療と生活上の注意を勉強し、自らよくコントロールすることができるようになります。大切なことは、合併症で重症にならない前に病気を予防し、症状を軽くして以前の先生のところに戻っていただけることです。どんな病気でも軽いうちに治療をすると後遺症もなく、元通りの元気な生活に戻ることができます。どんなことでもかかりつけ医の先生にご相談をしてください。

### 地域医療支援ベッドとは

医療費の抑制や入院期間の極端な短縮規制などの今日の厳しい医療環境を反映して、この数年多くの開業医の先生は入院設備を持つことが難しくなってきました。宮城病院では、地元医師会とよく連携して、かかりつけ医の先生からご紹介を受けた場合には地元住民の利用を最優先した『地域医療支援ベッド』を開設しています。現在稼働している30ベッドは、かかりつけ医の先生の通院や往診で治療されている途中で通院が難しくなった場合、病気が重症になってきた場合、ご家族がご自宅で患者様のお世話ができなくなってしまった場合、障害者施設や高齢者施設に入所されている方で医療が必要になった場合など、いろいろな場面を想定して運営しております。必要な方は是非ご連絡頂き、ご利用下さい。

#### ご相談とご連絡は

地域医療連携室（担当者：庄司、鈴木）

（TEL：0223-37-1131）をお願いいたします。



## BLS講習会

2004年7月1日に厚生労働省より、一般人のAED使用を支持・推進する文書が発表され、AEDが急速に普及しております。

当院においても2006年にAEDが設置されました。それに伴い、AEDを有効にかつ、安全に使用するためにBLS講習会を開催してきました。

去る9月13日に院内職員と地域の医療機関の職員を対象にBLS講習会が行われました。今回は昨年11月にガイドラインが変わり、新ガイドラインに沿った初めての講習会でした。

新ガイドラインのポイントは

速く(100回/分)、強く(成人:4~5cm、小児:胸郭の1/3程度)圧迫する

圧迫ごとに完全な胸郭の戻りが得られるようにする

圧迫の中断は10秒以内とする

過換気を避ける

です。

講習会は実技が中心になるため受講者の人数を制限せざるを得ない状況ではありますが、継続して講習会を開催していきますので、今後ともよろしくお願いします。

(a病棟看護師長 佐藤 由美)



## “職場体験”のため中学生来院



去る9月4日(月)から9月6日(水)の3日間、職場体験として坂元中学校2年生2名、亘理中学校2年生2名、計4名が来院しました。

9月4日は坂元中学校2名のみでの参加でa病棟での看護体験、9月5日は4名で午前中講義を聞き午後は職場見学、9月6日は1・2病棟での看護体験を行いました。

9月5日の講義では、病院を運営するために必要な様々な職種を紹介しました。職場見学では通常の病院見学では立ち入らない洗濯場やボイラーにもお邪魔し、いろいろなお話を聞かせていただきました。

生徒達は、なかなか質問するまでには至りませんでしたでしたが、各職場の説明に真剣に耳を傾けていました。

## 職場紹介 ~あすなる 病棟~

あすなる病棟は重症心身障害児(者)の方々が入院されている病棟で、病棟にわかれています。

3個病棟のうち、1番手前に位置する場所にあるのが、あすなる 病棟です。

スタッフは看護師が18名の他、医師2名、指導員1名、保育士2名、看護助手が4名と多職種が連携し、日々生活の援助に力を入れています。

話すことができる方、1人または車椅子で移動できる方、表情や仕草で話ししてくれる方が多く、病棟は毎日明るくにぎやかで、私たちも関わりの中から、いつも自然に元気をいただいています。

私たちはそんな皆様の笑顔が多く見られるよう、安心して入院生活を送っていただけるよう、日々努力し、看護しております。

これからも、お互いにコミュニケーションをとり、『笑顔』を大切に、信頼できるよい関係を築き、適切な看護が提供できるよう努めていきたいと思っています。

(あすなる 病棟看護師 奥山 美穂)





巨理に開業するに当り、当時の宮城病院院長板原先生にご挨拶にお伺いしました。  
老人保健施設併設するにも宮城病院に協力病院をお引き受けいただき誠に感謝しています。内科医開業は内科単科標榜です。インターンを最後にした学年で複数科ローテートし、冬の豪雪僻地でも過しました。内科から沢山の科が分かれ専門医となり内科専門医まで生まれました。臓器を極める、腹痛なら最低5人で診なけりゃ、いや10人で診なけりゃとなって医師はどんどん不足になりました。「内科」って何なの?の時代になりましたが、なお内科をしています。人間、食べて寝て排泄して笑って怒って生きています。生きること全体をサポートするのが内科と思っています。生れて死ぬまで。開業当時、外来で80歳の人稀でした。「神様」「仏様」と思い外来で待たせないようにしようとスタッフと話したことでした。

今や90歳、100歳が外来においでになります。嬉しいです。和多里ホーム入所者も90歳以上が45%を占めています。いろいろ各科にお世話をお願いして、平気な顔して長生きしていられて喜ばしいです。職員と共に努力しています。毎月の院内、ホーム研修会、サービス業としての研修として年1~2回の研修旅行を続けています。カルテは一連番号管理で2万を超えました。体重、血圧は毎回外来チェックです。年1回の自己血糖機器チェック、食事療法教室を行い、糖尿手帳、血圧手帳で自己コントロールを促しています。開業以来ずっと「タバコやめて」「散歩してね」「牛乳飲んでね」「お魚食べてね」「姿勢と体重」「塩と甘い物、炭酸飲料注意して」が口ぐせ外来です。尿中塩分測定もずっと続けています。食事、運動、睡眠が内科の要点です。検査室・技師、レントゲン室・技師がスタッフにあり、老健開設でリハスタッフ、ケアスタッフも加わりました。福祉スタッフもです。開業前、先端医療を目指し、携わり、1件レセプト超高額になりました。必要ではあると思いつつ普通の生活を支えるなら何百人分だなどの思いもありました。あたりまえの医療で生活を支えるのも一つの道だと思ひ、必要充分、早期対策を心がけ「あたり前」はずれない様、心がけて開業することにしました。老健開設も地域に無ければ高齢化社会で困るだろうと思つてのことです。

開業前は巨理に住んで市立病院、大学に電車通勤していました。宮城県沖地震にあいました。大学から自宅巨理に帰るのは大変でした。霧雨で停電でバスを乗り継いで深夜でした。以来、三上医院、和多里ホームは建物基礎、自家発電、備蓄、緊急時対応体制を準備し、地域の非常に対応するために、やや過剰ながらできる範囲内で対策しています。

(三上医院 三上 雅嗣)



三上医院のご紹介

診療科 / 内科  
住 所 / 〒989 - 2351  
宮城県巨理郡巨理町裏城戸179 - 1  
TEL / 0223 - 34 - 3711

主な紹介医療機関 (平成18年4月~9月末日現在) ご紹介ありがとうございます

- ・松村クリニック (66件)
- ・金上病院 (33件)
- ・渡辺病院 (30件)
- ・青木神経科内科クリニック (21件)
- ・立谷病院 (19件)
- ・平田外科医院 (42件)
- ・羽根田医院 (32件)
- ・みやぎ県南中核病院 (26件)
- ・公立相馬総合病院 (21件)
- ・広南病院 (17件)

上位10医療機関、他142医療機関からご紹介いただいております

生活習慣を見直そう ~ 高血圧症 ~ 薬剤科から

厚生労働省循環器疾患基礎調査(2000年)のによると、降圧薬服用者数は3,100万人~3,800万人におよぶとされ、高齢化により高血圧者は3,000万人を超えると推計される。

血圧関連因子として、食塩摂取量は、現在一人当たり1日12g前後であり、「健康日本21」では国民平均として一人当たり10g未満を目標としているが、国民全体では達成できていない。

肥満は、体格指数(Body Mass Index[BMI])で表され(肥満:25以上)、我が国の男性ではBMIの増加が各年齢層にみられ、女性は若い世代から50歳代までBMIの増加はみられない。

飲酒量は、量が多くなると血圧が上昇し、我が国の中年期男性の平均的な飲酒量は1日当たり純アルコール28g程度であり、高血圧の予防から男性の飲酒量はピル換算で2本程度であり、節酒を必要とする人が多い。

高血圧から脱却するためには、今までの生活習慣を修正する必要があり、修正項目としては、

食塩制限: 6g/日未満

野菜、果物の積極的摂取: (重篤な腎障害、糖尿病を除く)、コレステロール等の摂取を控える。

適正体重の維持: BMI(体重(kg)÷身長(m)<sup>2</sup>)が25を超えない。

運動療法: 高血圧者で心血管病のない場合には、有酸素運動を毎日30分以上を目標に行う。

アルコール制限: エタノールで男性20~30mL/日以下、女性10~20mL以下

禁煙

である。

【参考:「新・目でみる循環器病シリズ8高血圧】

(薬剤科長 諏江 裕)

# 診療案内

平成18年10月1日現在

診療科別		月	火	水	木	金
内科		佐藤 智彦	木村 格	木村 格	佐藤 智彦	仙台医療センター医師
神経内科	新患	木村 格	菊池 昭夫	久永 欣哉	木村 格	大隅 悦子
	再来	今井 尚志	今井 尚志	松本 有史	久永 欣哉	
呼吸器科		芦野 有悟				
消化器科		阿部 毅	検査	検査	阿部 毅	検査
高血圧/リハ外来		佐藤 智彦	木村 格	木村 格	佐藤 智彦	
循環器科			安田 聡 (東北大医師)			
アレルギー科		堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩
小児科	午前	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩
	午後		小児アレルギー (堀川 雅浩)	(第1・3)乳児検診	療育相談 (大島 武子)	
外科		未定				
脳神経外科		大友 智	安藤 肇史	大友 智	手術日	安藤 肇史
皮膚科					第4(木)のみ 東北大医師	
リハビリテーション科				(第2・4午後)古澤 義人 (入院患者対象)		
歯科		中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子
専門外来	パーキンソン病外来			久永 欣哉		
	A L S 外来			今井 尚志		
	もの忘れ外来					平岡 宏太良
	漢方外来	佐藤 智彦			佐藤 智彦	
	頭痛外来	佐藤 智彦			佐藤 智彦	
	脳ドック	佐藤 智彦			佐藤 智彦	
	A G A 外来	佐藤 智彦			佐藤 智彦	

## 受診される方へ

受付時間は8:30~11:00です。

土曜日・日曜日・祝日・休日及び年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。

ただし、救急の方は随時受け付けいたします。

お問い合わせ先 0223-37-1131

初めて当院を受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちください。紹介状がなくとも受診はできますが、その場合初診時に2,625円を負担していただくこととなりますので予めご了承ください。

## 交通のご案内

自動車でおいでの方

仙台方面から

仙台市中心部から南へ約40km、国道4号線6号線の分岐点から南へ約20km、国道6号線314.5kmポイントの位置です。

相馬方面から

国道6号線を仙台方面に向かい、宮城・福島県境から約10分です。

交通機関をご利用の方

仙台方面から JR常磐線山下駅下車、タクシーで約5分

相馬方面から JR常磐線坂元駅下車、タクシーで約5分

